

県立高校の魅力づくりを目指して

- ◎ 未来の高校生が生き生きと学べる魅力ある高校づくり
- ◎ 少子社会に対応した適正な規模と配置による
高校教育の一層の充実

基本方針

- 1 県立全日制高校を89校から75校体制に再編成し、教育環境を整備します
- 2 各通学区に総合学科高校と多部制・単位制高校を配置し、多様な学習ニーズに応えます
- 3 再編対象校以外の高校を含め、全ての県立高校の魅力づくりを推進します

長野県教育委員会

総合学科高校

【第1通学区】

中野高校・中野実業高校 新たな総合学科高校
【全日制 総合学科7学級 定時制 普通科1学級】

【募集開始年度】 平成19年度
【活用する校地校舎】 中野実業高校
【学校の特色】
地域からの教育ニーズに対応し、キャリア教育と地域連携に重点を置く総合学科高校
【設置系列】
国際・社会科学系列 自然環境系列 生活福祉系列
メカトロニクス系列 バイオテクノロジー系列 観光ビジネス系列
単位制・2学期制
科目選択のガイダンスなど継続的で一貫したキャリア教育
定時制普通科に単位制を導入

【第2通学区】

丸子実業高校 新たな総合学科高校
【全日制 総合学科7学級】

【募集開始年度】 平成19年度
【活用する校地校舎】 丸子実業高校
【学校の特色】
従来から行ってきた多彩な教育内容を融合して、地域と連携できる系列を設置する総合学科高校
【設置系列】
文化アカデミー系列 サイエンスアカデミー系列 環境工学系列
ビジネス系列 スポーツ健康系列 芸術デザイン系列
単位制・2学期制
科目選択のガイダンスなど継続的で一貫したキャリア教育
地元産業界や地元大学・短期大学との連携

多部制・単位制高校

【第1通学区】

屋代南高校 新たな多部制・単位制高校
【普通科 午前部2学級 午後部2学級 夜間部1学級 通信制】

【募集開始年度】 平成20年度
【活用する校地校舎】 屋代南高校
【学校の特色】
通信制を併置した三部制の多部制・単位制高校として、柔軟な教育システムを活かし、様々な学習ニーズを持つ生徒に対応でき、地域の生涯学習の拠点となる高校
【選択科目群(系)】
自然科学系 国際文化系 ライフデザイン系 ビジネス・IT系
ライフデザインなどの専門教育に関わる講座を開設
生涯学習講座の開設と外部講師の活用
東北信の定時制・通信制の中心校としたネットワーク型の高校

【第2通学区】

野沢南高校 新たな多部制・単位制高校
【普通科 午前部2学級 午後部1学級 夜間部1学級】

【募集開始年度】 平成20年度
【活用する校地校舎】 野沢南高校
【学校の特色】
三部制の柔軟なシステムを活かし、幅広い学習ニーズに応え、多彩な教育を行うとともに、生涯学習の拠点となる高校
【選択科目群(系)】
特別進学文系 特別進学理系 スポーツ福祉系
文化教養系 情報科学系 ベーシック教養系
進学希望などに応える多彩な選択科目群(系)を設定
生涯学習講座の開設と外部講師の活用
個別相談やカウンセリング等相談体制の充実

【第3通学区】

箕輪工業高校 新たな多部制・単位制高校
【普通科 午前部2学級 午後部1学級 夜間部1学級】

【募集開始年度】 平成20年度
【活用する校地校舎】 箕輪工業高校
【学校の特色】
柔軟な教育システムを活かして、一人ひとりの個性に応じて希望する進路の実現を目指す高校
【選択科目群(系)】
自然科学系 人文国際系 専門学科系 文化教養系
地元産業界との連携による体験型学習
受講計画や科目選択等の個別相談、カウンセリング体制の充実
特色あるクラブ活動の育成(フェンシング、ロボットなど)

【第4通学区】

松本筑摩高校 新たな多部制・単位制高校
【普通科 午前部2学級 午後部1学級 夜間部1学級 通信制】

【募集開始年度】 平成19年度
【活用する校地校舎】 松本筑摩高校
【学校の特色】
柔軟な教育システムを活かし、様々な生活歴、学習歴を持った生徒の多様な学習ニーズに応え、希望する進路実現を目指す高校
【選択科目群(系)】
自然科学系 国際人文系 社会教養系 情報ビジネス系
単位制・2学期制
生涯学習講座の充実
中南信の定時制・通信制の中心校としたネットワーク型の高校

統 合

【第1通学区】

飯山照丘高校・飯山北高校・飯山南高校 新たな高校
【全日制 普通科4学級 理数科1学級 体育科1学級】

- 【募集開始年度】 平成19年度
【活用する校地校舎】 飯山北高校（当面は飯山北高校と飯山南高校を活用するが、最終的には飯山北高校の校舎に統合する）
【学校の特色】
県内唯一の体育科の魅力を活かし、地域の生徒の多様な進路希望に応える学びの選択肢により地域人材を養成する高校
【設置学科コース】
特色学科 理数科 体育科
普通科 理系進学コース 文系進学コース
総合コース 実務情報コース
2段階の統合
平成19年度に飯山照丘高校と飯山南高校の統合
飯山市内の中学との連携を図る

【第1通学区】

中条高校・犀峽高校 新たな高校
【全日制 普通科3学級】

- 【募集開始年度】 平成19年度
【活用する校地校舎】 犀峽高校
【学校の特色】
地域の小規模な高校として、少人数講座を編成し、密接な人間関係を築き、基礎基本を身につける教育や大学進学に対応する教育など、きめ細かく多様な生徒に対応できる高校
【設置コース】
特別進学コース 国際情報コース 介護福祉コース
地域に根ざし、地域との連携を図った小規模校の教育活動のメリットを活用
カヌーなどの特徴あるクラブ活動を継続・発展

【第1通学区】

長野南高校・松代高校 新たな高校
【全日制 普通科5学級 商業科2学級】

- 【募集開始年度】 平成19年度
【活用する校地校舎】 松代高校
【学校の特色】
普通科と商業科の総合選択制高校とし、特徴あるクラブ活動が選択でき、地域と連携した教育活動が行われる高校
【設置学科コース】
普通科 理系進学コース 文系進学コース
総合選択コース
商業科 流通ビジネスコース 企業会計コース
e-ビジネスコース
普通科の総合選択コースと商業科で互いの科目選択が可能
生徒の進路にあわせ、特徴ある学校設定科目を開設
地域連携による教育活動の継承

【第2通学区】

蓼科高校・望月高校 新たな高校
【全日制 普通科4学級】

- 【募集開始年度】 平成19年度
【活用する校地校舎】 蓼科高校
【学校の特色】
4つのコースを設置し、生徒の多様な興味・関心に応え、充実した高校生活と希望する進路を実現する高校
【設置コース】
進学コース 福祉コース 情報ビジネスコース
地域・教養コース
地域と連携して体験的活動やインターンシップを推進
地域に開かれた学校づくり
特色あるクラブ活動の充実

【第3通学区】

岡谷東高校・岡谷南高校 進学対応型単位制高校
【全日制単位制 普通科8学級】

- 【募集開始年度】 平成19年度
【活用する校地校舎】 岡谷南高校（単位制の導入により、当面は岡谷東高校と岡谷南高校を活用するが、最終的には岡谷南高校の校舎に統合する）
【学校の特色】
普通科目の中から大学等進学の進路希望に合わせた科目選択ができ、生徒一人ひとりが希望する進路の実現を目指す進学対応型単位制高校
【選択科目群（系）】
理数系 国際文化系 総合進学系
単位制・2学期制により学期ごとの科目履修が可能
ガイダンス機能の充実によるきめ細かな進路指導
県内大学、短期大学との連携

【第3通学区】

飯田工業高校・飯田長姫高校 新たな高校
【全日制 工業科5学級、商業科1学級 定時制 普通科2学級】

- 【募集開始年度】 平成19年度
【活用する校地校舎】 飯田工業高校
【学校の特色】
職業教育を主とする専門高校として、下伊那地域の「ものづくり」を基本に据えて専門性を高める高校
【設置学科】
（全日制） 工業科（機械、電子機械、電気、土木、建築）
商業科
（定時制） 普通科
「ものづくり」を通じ地域社会の発展に貢献する能力と態度を育成
地域と連携し、開かれた学校づくりを推進
定時制普通科に単位制を導入

統 合

【第4通学区】

【第4通学区】

木曽高校・木曽山林高校 新たな高校
 [全日制 普通科3学級 理数科1学級 農業科1学級
 工業科1学級 定時制 普通科1学級]

大町高校・大町北高校 新たな高校
 [全日制 普通科7学級]

【募集開始年度】 平成19年度
 【活用する校地校舎】 木曽高校（施設の有効利用を図るため、当面は木曽高校と木曽山林高校を活用するが、最終的には、木曽高校の校舎に統合する）
 【学校の特徴】
 普通科、特色学科、専門学科を併設し、多様な生徒の希望する進路に応えることができる学びの選択肢を持つ総合選択制高校
 【設置学科コース】
 普通科 理数科
 農業科（森林環境科） サイエンスコース ビジネスコース
 工業科（インテリア科） プロダクトコース デザインコース
 総合選択制を導入し、普通科と専門学科の間で相互に科目選択
 大学や研究機関、林業大学校、地元中学校などと連携を強化
 定時制普通科に単位制を導入

【募集開始年度】 平成19年度
 【活用する校地校舎】 大町高校
 【学校の特徴】
 5つのコースを設置し、生徒の多様な学びのニーズに応え、希望する進路の実現を目指す高校
 【設置コース】
 特別進学コース 自然科学コース 人文科学コース
 国際コミュニケーションコース 情報ビジネスコース
 生徒の広い学力幅にきめ細かく対応
 特色ある学校設定科目
 大学や研究機関、企業との連携

高校改革プランについて

Q1 なぜ統合などの再編整備が必要なのでしょう。

生徒数の減少が進み、学校規模が小さくなることによって、配置できる教員数が少なくなり、専門の先生が確保できなかったり、教科・科目の選択幅が縮小したり、学習活動の面で提供できる教育の質の低下が心配されています。その他、部活動、生徒会活動など集団活動などの面でも活力低下が心配されています。未来を担う子どもたちのために、望ましい学習環境を整えていくことが必要となっています。

Q2 高校が統合された場合、在校生も新高校の生徒になるのですか。

統合してできた新高校への移行は、新高校になったときの高校1年生から年度ごとに順次進めます。従って、在校生は入学した高校の生徒として卒業することになります。

Q3 統合された場合、部活動はどのようになるのですか。

統合前の高校と統合後の新高校との連合チームでの大会参加が可能です。もちろん、単独チームでの参加もできますから、各部の活動状況により大会参加の形態を選択していくことができます。また、統合により学校規模が大きくなるので、これまで以上に生徒のニーズに対応できる活力ある部活動が期待できます。なお、統合過程においては、必要に応じて、両校間の移手段についても配慮します。

Q4 学校数が減ることによって、中学生の進路選択に支障が出たりしませんか。

各通学区の中に、総合学科や多部制・単位制など新たなシステムによる学校を設置するなど、学びの選択肢を広げることを計画しています。募集定員についても各通学区の中学校卒業生数の推移を見ながら、これまで同様、必要な定員を確保していきますので、進路選択に支障の出るようなことはありません。

